

なごや東版



レモンしぼり  
早川悦子  
中部一水会

ニュース、情報は下記へ  
社会部  
052-231-1650・5919  
Eメール

shakai@chunichi.co.jp

瀬戸支局 〒489-0809  
瀬戸市共栄通4-8  
0561-82-3121 Fax 82-5316  
日進通信部 〒470-0113  
日進市栄2-214  
0561-74-2002 Fax 74-2003  
春日井支局  
0568-81-2036 Fax 81-2797  
犬山通信局  
0568-61-2612 Fax 61-2613  
小牧通信局  
0568-72-1177 Fax 72-6530

中日新聞へのご意見は  
読者センターへ  
052-221-0800 Fax 221-0819  
Eメール  
center@chunichi.co.jp

掲載写真を購入希望の方は  
最寄りの中日新聞販売店へ

いのちのかけこみ寺  
縁切り供養  
**大法寺**  
費用、跡継ぎ、供養、墓じまい、仏壇じまい  
何でもご相談ください  
**0567-28-7319**  
愛西市稲葉町江頭10番地  
樹木葬 大法寺 検索

# お年寄りも障害ある子どもも… 一緒にサッカーしようよ



豊明市の星城高サッカー部は一月から、高齢者や障害のある子どもたちと一緒にサッカーを楽しむ交流会を同校で定期的に行っている。「出会いによって発想を豊かにしてもらいたい」と願う同部の大木慶志監督と、「子どもたちが広いグラウンドで走り回れたら」と願う市内の福祉施設との思いが一致して実現した。(平木友見子)

## 星城高 部活で定期的に交流会

同部に二〇一九年に就任した大木監督は、強化策を模索し「選手がいろいろな気づきを得て、自分で動けるようにならなくてはならない」と考えていた。昨年末、近くにある障害児の日中一時支援事業所「ぴいすぼ」が支援サーブिसにサッカーを取り入れ、元Jリーガー深川友貴さんを招いて教室を開いていることを知った。すぐさま事業所を運営する志水宏司社長に交流会開催を提案。同事業所の子どもたちが同高グラウンド前を通るたび「こんなところで走り回りたいね」と言っていたこともあり、企画はとんとん拍子で進んだ。

志水社長は、市内で障害者対象の四施設と高齢者介

子どもたちとサッカーを楽しむ(右から)深川さん、大木監督とサッカー部員たち＝豊明市の星城高で

護施設を運営しており、交流会には子どもからお年寄りまで参加する。志水社長は「せっかくなら来た人がみんな来られるようにしたかった。すごく自由に楽しんでる姿がうれしいし、部員たちには同じ町にいろいろな人がいると身近に感じてほしい」と願う。

三回目となった十一日は、部員約六十人と各施設の計約六十人が二部に分かれて各一時間交流。パスを回したり、シュートが決まるとハイタッチを交わしたり、楽しそうに親睦を深めた。全国各地で障害者サッカーの普及活動をする深川さんは「(障害のあるなしにかかわらず一緒に楽しむ)インクルーシブを取り入れる学校の部活は全国でもないので」と感嘆する。

同部三年の杉山爽斗(あきと)主将は「自分と違って、伝えることや動くことが難しい人たちにどれだけ寄り添えるかが大事だと知った」と感想を語った。